

## 21 世紀に学ぶ人を支援する：マサチューセッツ大学アマースト校でのマルチメディア アプロダクションセンター構築

Head, Undergraduate Teaching and Learning Services, W.E.B. Du Bois Library, University  
of Massachusetts Amherst

サラ・ハットン

### 概要

マサチューセッツ大学アマースト校では、教員が活発な、グループ型の、および参加型の教育手法を用いることが増えており、マルチメディアプロジェクトを支える高度な技術を利用したより創造的な課題に学生を参加させています。以前から、映像プロジェクトは、映画学、ジャーナリズム、コミュニケーションの講義で求められてきました。現在、このタイプのマルチメディアプロジェクトの台頭は人類学から歴史学の科目にまで及んでいます。必修科目の新入生ライティングコースには、伝統的なリサーチペーパーの他に、多様な技術的メディアを利用してライティングやリサーチを行うことが組み込まれています。

マサチューセッツ大学アマースト校図書館システムは、教育・学習目標を支援するために、学生の空間をあつらえることで教員と学生のニーズを先取りすることを目指しています。私たちは、情報基盤センターと密接に協力しながら、カリキュラムが絶えず変わる中、学生の増加するニーズを満たすためにマルチメディア制作スペースを構築しています。ここには、映像・音響を録画・録音し、制作するエリアがあります。同様に、学生が借りることができる映像録画・音響録音機器、マルチメディアプロジェクトを編集するためのハードウェア・ソフトウェア、そして完成したプロジェクトを学生が見ることができ、学生同士でプレゼンテーションスキルを練習することができるエリアがあります。

このプレゼンテーションでは、大学図書館がこのマルチメディア制作スペースを創設する過程の概要を、ラーニングコモンズの歴史的背景、ニーズ調査、施設計画、および教育のコーディネートを含めて述べていきます。

### マサチューセッツ大学アマースト校図書館

1,450 エーカーの敷地面積を有するアマーストキャンパスの 4 か所に、以下の図書館があります： Image Collection Library, Music Reserves Library, Science and Engineering Library, W.E.B. Du Bois Library。これらの図書館は広大なランドグラント研究機関<sup>2)</sup>にあり、およそ 200 人以上の専門スタッフと学生スタッフが働いており、一般市民のほか 26,900 人を超えるフルタイム(フルタイム相当)学生<sup>3)</sup>にサービスを提供しています。キャンパスの中心にある W.E.B. Du Bois Library は、26 階を超える高さで通常「ザ・タワー」と呼ばれています。この図書館

はアマーストキャンパスにおける大学生活の地理的拠点および学習上の拠点となっています。しかしながら、10年ほど前の W.E.B. Du Bois Library は、今日のような活気に満ちて利用者が集まる場所にはほど遠いものでした。利用者が増加し、学習プログラムや学生活動が再び活気づいたのは、ラーニングコモنزの発展に拠るところが大きいのです。

- 
- 1) 研究図書館協会統計報告書より
  - 2) 通称 “Mass Aggie”として 1863 年に創立

### マサチューセッツ大学におけるラーニングコモنزの展開

2004年、W.E.B. Du Bois Library 内の空間は、まさに変化を経験している図書館の空間でした。オンライン目録はかなり以前にカード目録にとって代わりました。コンピュータについては、基本的なワープロやウェブアクセスのために学生に利用可能にしたものもありましたが、それ以上のものを提供する必要があったのは明らかでした。当時は、タワーの上階に置かれたいくつかのコンピュータラボ以外に技術的なものはありませんでした。学生のインターネット上の情報資源への依存度が増加したこともあり、より高度なソフトウェアとより多くの設備へのニーズが高まりました。またノートパソコン使用の増加により、図書館がモバイルコンピュータ機器のための空間と接続サービスを提供する必要も出てきました。

しかしながら、ラーニングコモنزは単なる学習空間以上のものです。この空間は学生の学びを支援する無形概念全てを具現化しています。協同して取り組むための集いの場の提供とともに、リソース、サポート、利用者を「革新的な教育法」に関わらせる能力など、ラーニングコモنز創設のために結集すべき多くの要因があります。利用者中心のモデルとは、学生のニーズに合致する空間 — それは学問環境というだけでなく学生の学問的目標につながるのが望ましいのですが — を提供することです。

2005年にラーニングコモنزがオープンした時には、学生に対して、協同作業空間、個人学習空間、様々なサービススペシャリストの支援が受けられる空間が提供されていました。現在のラーニングコモنزの専門的なサービスは以下の通りです。

- 情報基盤センター(OIT)からの技術サポート
- 大学図書館員からの研究支援
- 貸出と予約
- 技術サポートセンター
- 大学のライティングセンター
- 国際プログラム室 (留学プログラム)
- 学習相談

- ラーニングリソースセンター（10階フロアでの個別指導）

大学図書館は、キャンパスの中心的な学生ハブとしての自身の有効性を判定するために、過去7年間に渡ってラーニングコモنزの利用パターンを継続して調査<sup>3)</sup>してきました。図書館内のサービスと空間に対する需要が増加したため、ラーニングコモنزは2010年に追加の拡張を行いました。空間の増設に加え、学生のニーズが今後増えると予測してより適合したサービスとリソースを増やすことにしました。2008年、ラーニングコモنزにおけるマルチメディアサポートへの高まる需要について検討するために、教員と図書館員のグループ<sup>4)</sup>が招集されました。いくつかの近隣大学の状況調査を行い、グループは、マルチメディアセンターが図書館と情報基盤センターとの協同によって設立されるべきであることを勧告しました。この勧告のすぐ後、いくつかのマルチメディア編集拠点あるいは‘pods’（さや型のワークエリア）が試験的にラーニングコモنزに設置されました。学生たちがこれらの先進的な拠点をどのように利用するのか、またこれらのpodsをうまく利用するにはどのような支援サービスが必要であるかを知るためでした。

-----  
3) 全てのデータは以下のサイトで見ることができる：

<http://www.massbedrock.org/about-the-libraries/assessment-and-statistics/>

4) 情報基盤センターマルチメディアタスクフォース

### 高まるマルチメディアへのニーズ

ラーニングコモنزにおけるマルチメディアの試験的な取り組みを行った翌年、自身のコースにマルチメディアプロジェクトの導入を検討している教員からの報告が急増しました。年間約4,000人もの学部生を扱う新入生ライティングコースは、新しいメディアプロジェクトについて利用可能な技術や支援の調査を始めました。図書館はその年、類似の事例を収集し、2010年末にはマルチメディアタスクフォースが再度動き始めました。その責務は、W.E.B. Du Bois Library内に新しいマルチメディアプロダクションセンターを設立する計画を積極的に前進させることでした。タスクフォースは、毎年情報基盤センターが行う学生および教員の技術利用傾向調査<sup>5)</sup>にアクセスできますが、一方で更なるニーズ調査法が必要であることを認識しました。施設視察、教員の推薦、調査、フォーカスグループの結果などを考慮して、学生のニーズを満たす空間、設備、サービスの最適な組み合わせが決定されました。

-----  
5) 技術利用に関する質問調査票は全ての在學生に配布された

### 継続的なニーズ調査

3種類の利用者のフォーカスグループ：学生、教員、そして教員サポートスタッフそれぞれのグループで調査が行われ、教室内外に設置されているマルチメディア、新しいメディア技術に関

する理解や利用について質問しました。各グループには様々なセクションから参加するようにしました。フォーカスグループは、映画学から会計や歴史までにわたる学部やプログラムから参加者を集め、一般的な学部学生のニーズについての包括的な全体像が得られました。グループ参加者の反応として圧倒的に共通していたのは、「マルチメディア」の定義は概して異なるということ、同様に、マルチメディア制作について各々が認識している専門知識にもむらがある、ということでした。参加者に共通していたのは、マルチメディアプロジェクト制作の研修やサポートに対する大きな関心でした。彼らは、現在自分達が持っている知識や技能以上のマルチメディアプロジェクトを作りたいと強く思っていますが、デジタルストーリーテリングのようなプロジェクトは充実した内容となる一方で、制作過程を理解していないと研究の独自概念化ができないことから、投資（特に時間の投資）するほどではないと考えていました。

これらの予備的なフォーカスグループから得られた最大の成果は、安定したサポートシステムの必要性でした。そのシステムには常勤のスタッフや学生、教育セッション（ワークショップ）、そしてサポートのための稼働時間延長が求められます。マルチメディア制作スペースの検討を始める数年前に、ラーニングコモンズの評価を行ったフォーカスグループの中でも似たような反応を受けていたことを考えれば、これは驚くべき結果ではありませんでした。技術的に強化されてもサポートがない空間は失敗する運命にある、という共通テーマは常にどのプロジェクトにも見出すことができます。

## 施設と空間の計画

フォーカスグループと調査の結果により、マルチメディアプロダクションセンターの空間計画が具現化され始めました。ワーキンググループは、学生により提示されたニーズである、3つの最高の物理的エリアを次のように定義しました。

- 音響録音のための静かな空間
- 映像録画のための適切な照明エリア
- プロジェクトレビューおよびプレゼンテーションの練習のための空間

さらに、これらの空間利用に関する教育も必要であるとの声を受けて、物理的な部屋と設備だけでなく、研修や教育のための空間もまた設立計画に組み込まれる必要性が出てきました。フォーカスグループからの勧告では以下の通りです。

- 相談のためのエリア
- スタッフオフィスエリア
- 研修/教育のためのエリア
- マルチメディア編集エリア

- 防音対策のなされた音響録音エリア
- 映像/グリーンスクリーン録画エリア
- 制作後のプロジェクトレビューやプレゼンテーションの練習のためのエリア

約25,000平方フィートを予定するエリアにこれらの空間を作るためには、まず初めに対処しなくてはならない阻害要因がいくつかありました。

- 現在フロアに保管されているコレクション – 音楽に関する作品とメディア
- メディアおよび音楽に関する作品の6階フロアへの移動
- 囲いと門の排除（音楽グループからのセキュリティ上の意見による）
- 閲覧カウンターの変更/再構成（施設の電気関連上の意見に基づいて）
- エリアへのパーティション設置
- 電気配線関連の再構成 – 2013年6月（キャンパス全域更新の一部として）
- 全フロアの電力要件の調査確認
- 電気クローゼットスペースの割り当ての確認
- スペースの細分化のための配慮事項：暖房、換気、空調、通気、火災コード（非常灯、火災警報器）

1つの空間の創設プロジェクトが計画される中、このマルチメディア空間の展開の中核に影響を及ぼすいくつかのプロジェクトが実際に同時進行していました。いくつか阻害要因はありましたが、ワーキンググループは「マルチメディアプロダクションセンター コーディネーター」<sup>6)</sup>として常勤スタッフを雇用すべきと主張しました。空間計画の過程でコーディネーターあるいはプログラムディレクターを擁することは、その空間を将来成功させる決定要因となります。マルチメディア制作スペースを管理かつ計画するためのコーディネーターは、2012年9月現在、まだ図書館に雇われていません。

-----  
6) FTE (フルタイム相当)については依然として承認処理の途上にある。

### 教育のコーディネーター

最初のフォーカスグループからの発見に基づいて、教育ワークショップがこの大規模プロジェクトに不可欠な要素であるとわかりました。この必要性を決定する上で特に有用であったフォーカスグループでの質問は以下の通りです。

- あなたの理想とするマルチメディアプロジェクトを行う上での障害要因は何ですか？
- マルチメディアを制作するためにはどのような研修または援助が必要ですか？
- 学生のマルチメディア制作における最大の障害として何を挙げますか？

マルチメディア制作における最大の障害として学生が述べたのは、マルチメディアプロジェクトをどのように展開するか理解していない、専門的なコンピュータ機器およびソフトウェアの使い方を知らない、マルチメディアプロジェクトを展開するために利用可能なリソースがない、といったことでした。

教育ワークショップを展開する必要があるとの決定に続き、教育担当の技術者、情報技術サポートスタッフ、教員および図書館員のグループで、マルチメディアプロジェクトの創設にあたって研修セッションが提供できるかどうか検討しました。以下の3つの主要な分野において研修が必要と判断されました。

- マルチメディアプロジェクトの展開  
ストーリーボードなど、先行してのプロジェクト計画の展開
- メディア管理  
自分のプロジェクトに最適なファイルタイプの選び方、およびファイルの共有と保管方法の理解
- 体験する機会を得る  
最適なメディアキャプチャーを確保するための映像・音響機器の実践体験

新しい空間の工事が完了する前に、これらのワークショップが図書館内で学生に提供されることが決まり、マルチメディア制作スペースのオープン予定<sup>7)</sup>より数か月前の2012年秋に始まりました。工事はまだ進行中ですが、学生はキャンパスでのマルチメディアサポートの中心地として図書館に慣れ親しみ始めるでしょう。

---

7) 2013年春が望ましいが、必要な電気系統の改修のために遅延の可能性がある。

## 結論

マルチメディアプロダクションセンターの構築プロジェクトは順調に進んでいますが、私たちが正しい方向へ前進していることを確かにするために、大学での学生のニーズを継続的に評価することが重要です。学生のニーズの全体像をつかむためには、図書館員はキャンパスで教員や他の学生支援サービス部門と密接に協力し、最新の動向、変化、そして利用可能なリソースを明示する必要があります。新しい空間の創設は胸が躍る未来かもしれませんが、完成して終わりではなく、常に変化が必要であることを念頭に置くことが不可欠なのです。

## 参考文献

UMass Amherst Annual Library Statistics 2001-2010 and selected expenditure charts, compiled for the Association of Research Libraries (ARL), (2011).

Multimedia Center SWAT Team Report, University of Massachusetts Amherst Libraries, (February 13, 2008).

Multimedia Task Force Report to the Provost Learning Commons Committee, Phase I Recommendations, University of Massachusetts Amherst, (2011).